

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	健康づくり講演会			事業開始年度	H14	1
担当課	保健福祉課	担当係	健康管理センター保健推進係	担当者	杉山 絹子	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☒ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	2	住み慣れた地域で安心して暮らせる支えあいのまちづくり
	政策	3	健康で安心して暮らせる保健医療のまちをつくる
	施策	①	主体的に取り組む健康づくりの推進
	具体的な施策	5	健康づくり啓発活動の促進
めざす目的成果		健康づくりに関する知識を住民に普及することで、地域での健康意識の向上及び健康づくりのための保健行動のきっかけづくりとする。また、健康推進部連絡会委員の学習の機会となることを目指す。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	住民	
	手段・手法	講演会	
	内容	健康推進部連絡会の事業の一環として、広尾町と共催し、講演会を実施	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位: 千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳	
コスト	事業費	報償費	50		0		50		(報償費) ・講師謝金:50 (需用費) ・食糧費:2
		需用費	2		2		2		
	事業費合計	52		2		52			
人件費	常勤職員(延)	5 人日	156	5 人日	157	5 人日	171		
	臨時職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0		
	人件費合計	156		157		171			
総事業費		208		159		223		令和元年度財源内訳の積算	
財源内訳	国道支出金								
	地方債								
	その他特定財源								
	一般財源	208		159		223			
	財源合計	208		159		223			
H30年度 実施内容		平成30年11月28日19時～20時30分 ・広尾町の健診受診状況と健康課題(健康管理センター保健師) ・がんで『あし』をすくわれないために(北斗病院消化器内科 河瀬智哉医師) 参加者数53名							
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 最終目標値		
講演会の参加者数		参加人数により、健康に関する 関心度をはかることが可能で ある。		人	48 (30)	53 (30)	— (30)	H 年度 ()	
					 ()	 ()	— ()	H 年度 ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 最終目標値		
講演会の参加者数		参加人数により、健康に関する 関心度をはかることが可能で ある。		人	48 (30)	53 (30)	— (30)	H 年度 ()	
					 ()	 ()	— ()	H 年度 ()	

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。		
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☒ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☒ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()		
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☒ 見直す余地があるが時間が必要 ☐ 見直す余地がない	
		☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☒ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 町民が主体的に健康づくりに取り組むための普及啓発の一環として、事業は必要と判断する。また、健康推進部連絡会と共催することにより、健康推進部としての役割を認識し、町民・地域全体の健康意識の向上につながると考える。			

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ(2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止			
			時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
今後の取組方針(改善点・変更点)						
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止			
			時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
総合コメント						

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	広尾つつじまつり			事業開始年度	S54	2
担当課	水産商工観光課	担当係	商工観光係	担当者	三上 昌樹	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☒ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	1	豊かな自然を生かした活力ある産業のまちづくり
	政策	2	各産業と連携した活力ある商工・観光の振興
	施策	②	地域の素材を生かした観光、サンタランドの推進
	具体的な施策	5	イベントの充実
めざす目的成果		広尾町の花であるつつじが咲き誇る大丸山においてつつじまつりを開催し、観光客の誘致を促進し、地域経済の振興を図る。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	・町民、町外者	
	手段・手法	・防災無線、広報誌、ホームページ、チラシ新聞折り込みで周知	
	内容	・特産品、飲食物の販売 ・参加型アトラクションの実施	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳		
コスト	事業費	宣伝広告費		107		106		180	[宣伝広告費]	
		施設費		168		337		383	チラシ印刷・折込、新聞広告 136	
		事業費合計		430		708		1,233	[施設費]	
		事務費		86		91		102	交通警備 144	
		予備費						102	物品レンタル代 127	
		事業費合計		791		1,242		2,000	消耗品、燃料、役務費 51	
	人件費	常勤職員(延)		26 人日	811	30 人日	941	25 人日	855	音響オペレーター 20
		臨時職員(延)		20 時間	16	24 時間	20	37 時間	30	コンセント盤取付工事 11
		人件費合計		827		961		885		物品購入 30
		総事業費		1,618		2,203		2,885		[行事運営費]
財源内訳	国道支出金								行事運営費 400	
	地方債								さけます鍋材料費等 169	
	その他特定財源								消耗品費 16	
	一般財源		1,618		2,203		2,885		司会・大道芸委託料 648	
	財源合計		1,618		2,203		2,885		[事務費]	
H30年度実施内容		食い倒れ市場、時鮭千人鍋、広尾町150年記念事業(ツリー植樹、ファイターズ応援大使イベント つまようじアート)、つつじ植樹祭、公募イベント(広尾ジャズスクール、広尾バトンメイツ)、大道芸・ダイヤモンドアート体験コーナー、玉入れ大会、広尾しゃもんピック、子ども駄菓子まき、ふわふわドーム等								
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 最終目標値			
来場者数		来場者が多いほど、観光客の誘致が促進される。		人	雨天中止 ()	3,000 (3,000)	— (4,000) (3,500)			
売上金額		売上金額が多いほど、町内への経済に効果がある。		円	雨天中止 ()	740,350 (1,500,000)	— (1,000,000) (1,000,000)			
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 最終目標値			
							— H 年度			
							— H 年度			

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。		
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()		
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☒ 見直す余地があるが時間が必要 ☐ 見直す余地がない	
		☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☒ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 5月下旬の日曜日の開催に変更したが、6月第1日曜日の時と比較し出店者の売上が半減しているため、何らかの工夫が必要。			

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☐ 現状のまま ☒ 縮小			
	今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☐ 現状のまま ☒ 縮小			
	総合コメント					

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	十勝港まつり			事業開始年度	S30	3
担当課	水産商工観光課	担当係	商工観光係	担当者	三上 昌樹	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☒ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	1	豊かな自然を生かした活力ある産業のまちづくり
	政策	2	各産業と連携した活力ある商工・観光の振興
	施策	②	地域の素材を生かした観光、サンタランドの推進
	具体的な施策	5	イベントの充実
めざす目的成果		十勝港を舞台に地域の特性を生かした観光イベントとして「十勝港まつり」を開催し、観光事業の健全な発展を図り、本町の観光振興に寄与する。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	・町民、町外者	
	手段・手法	・防災無線、広報誌、ホームページ、チラシ新聞折り込みで周知	
	内容	・十勝港海上花火大会:特産品・飲食物の販売、ステージイベント実施、巡視船とかち体験航海、港パネル展等、海上花火大会 ・ふるさと夏まつり:飲食物の販売、ステージイベント実施、仮装盆踊り大会	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳	
コスト	事業費	運営管理費		4,094		4,985		4,400	【運営管理費】 総務費、宣伝広告費、交通警備費、施設費 4,400
		海上花火大会負担金		4,000		4,576		4,000	【海上花火大会負担金】 海上花火大会負担金 4,000
		仮装盆踊り大会		944		1,175		1,200	【仮装盆踊り大会共催費】 仮装盆踊り大会共済費 1,200
		ステージイベント		1,959		2,281		2,011	【ステージイベント等】 ステージイベント、司会委託、音響オペレーター、謝礼、音響等レンタル、YOSAKOIソーラン、駄菓子まき
		巡視船体験航海等		24		146		30	2,011
		予備費		0		0		96	【巡視船体験航海】 消耗品等 30
		事業費合計		11,021		13,163		11,737	
	人件費	常勤職員(延)		99 人日	3,086	148 人日	4,639	102 人日	3,486
		臨時職員(延)		224 時間	180	163 時間	131	146 時間	117
		人件費合計		3,266		4,770		3,603	
総事業費		14,287		17,933		15,340		令和元年度財源内訳の積算	
財源内訳	国道支出金								
	地方債								
	その他特定財源								
	一般財源		14,287		17,933		15,340		
	財源合計		14,287		17,933		15,340		
H30年度実施内容		【海上花火大会】ポートパザール、ステージイベント、陸上自衛隊音楽隊演奏、YOSAKOIソーラン演舞、港パネル展、JAF子ども安全免許証発行イベント、高速道路利用促進PRイベント、海上自衛隊ミサイル艇・陸上自衛隊車両展示一般公開、巡視船「とかち」体験航海、海上花火大会 【ふるさと夏まつり】夏まつりパザール、ステージイベント、子ども駄菓子まき、サンタクラブ抽選会、仮装盆踊り大会、長靴飛ばし・早食い競争、だるまやかし、復刻版、マンパ、マンパ、マンパ							
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H29実績		H30実績		R1(目標)	目標年度	
			H29(目標)		H30(目標)			最終目標値	
来場者数	来場者が多いほど、観光客の誘致が促進される。	人	22,000		19,000		—	R 2 年度	
			()		(25,000)		(25,000)	(25,000)	
売上金額	売上金額が多いほど、町内への経済に効果がある。	円	6,149,960		6,195,110		—	R 2 年度	
			()		(8,000,000)		(8,000,000)	(8,000,000)	
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H29実績		H30実績		R1(目標)	目標年度	
			H29(目標)		H30(目標)			最終目標値	
							—	H 年度	
			()		()		()	()	
							—	H 年度	
			()		()		()	()	

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。		
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()		
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☒ 見直す余地あるが時間が必要 ☐ 見直す余地がない	
	☒ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☒ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☒ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()		
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 十勝港海上花火大会用駐車場の草刈だけで約25人日(常勤)、163時間(臨時)(H30実績)使っており、作業を委託に出す等の検討が必要である。			

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☐ 現状のまま ☒ 縮小			
	今後の取組方針(改善点・変更点)		準備作業について、委託できるものは外部へ委託するなどの検討が必要ではないか。			
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☐ 現状のまま ☒ 縮小			
	総合コメント		準備作業の外部委託を検討すること。			

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	生涯学習まちづくりセミナー			事業開始年度		4
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☒ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3	豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯を学びゆとりを育む
	施策	①	地域社会に還元する生涯学習の推進
	具体的な施策	1	生涯学習推進協議会などと連携した生涯学習の推進
めざす目的成果		生涯学習の啓発と住民参加型「協働のまちづくり」の意識の高揚を図る。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	全町民	
	手段・手法	生涯学習やまちづくりに関する講師の招へい	
	内容	生涯学習やまちづくりに関する講演会の開催	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳
コスト	報償費		75		75		75	[報償費] 生涯学習セミナー講師謝金 75 [需用費] 食糧費 5
	需用費		5		5		5	
	事業費合計		80		80		80	
人件費	常勤職員(延)	5 人日	156	5 人日	157	5 人日	170	令和元年度財源内訳の積算
	臨時職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0	
	人件費合計		156		157		170	
	総事業費		236		237		250	
財源内訳	国道支出金							
	地方債							
	その他特定財源							
	一般財源		236		237		250	
財源合計			236		237		250	
H30年度実施内容		北海道防災教育アドバイザーの根本昌宏氏を講師にお迎えし、「災害に強いまちづくりの推進に向けて」と題し、冬季の災害対策を中心とした講演を行った。 日時:平成30年12月11日(火) 来場者数:63名						
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	R1(目標)	目標年度 最終目標値		
来場者数	来場者数が多いほど、生涯学習への意識高揚の効果が期待できる。	人	88 ()	63 ()	— (100)	H 年度 ()		
			()	()	()	H 年度 ()		
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	R1(目標)	目標年度 最終目標値		
			()	()	— ()	H 年度 ()		
			()	()	— ()	H 年度 ()		

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。		
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()		
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない	
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()		
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 現時点で、生涯学習・まちづくり・ボランティアといったテーマを集約したセミナーとなっており、これに代わるものは無い。			

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
	今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
	総合コメント					

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	高齢者学習講座「ひろすまいる元気塾」			事業開始年度		5
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3	豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯を学びゆとりを育む
	施策	②	自己実現をはかる社会教育の充実
	具体的な施策	3	高齢者教育への支援
めざす目的成果		高齢者を対象に学習機会の提供などを続けることで、個人の人生が豊かで充実したものになると同時に、その成果が地域づくりへと還元される。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	60歳以上の町民	
	手段・手法	年7～8回程度の講座の実施	
	内容	・レクリエーション ・健康講話 ・視察学習 ・音楽、映画の鑑賞 など	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳		
コスト	事業費	報償費		160		150		180		[報償費]
		需用費		12		15		36		高齢者学級講師謝金 180
		使用料及び賃借料		44		64		64		[需用費]
										消耗品費 18
										食糧費 18
	事業費合計		216		229		280		[使用料及び賃借料]	
									講座用物品借上料 64	
	人件費	常勤職員(延)		20 人日	623	20 人日	627	20 人日	681	
		臨時職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0	
		人件費合計		623		627		681		
総事業費		839		856		961		令和元年度財源内訳の積算		
財源内訳	国道支出金									
	地方債									
	その他特定財源									
	一般財源		839		856		961			
	財源合計		839		856		961			
H30年度 実施内容		計7回の講座を実施。 第1回:開校式・レクリエーション、第2回:視察学習(十勝ヌブクガーデン、マテックグループ)、第3回:介護予防・健康増進講座、 第4回:音楽鑑賞「加藤流三絃会」、第5回:映画鑑賞「帰ってきた若大将」、第6回:芸術鑑賞「オープンガク堂café」、 第7回:振り込め詐欺をテーマとした創作落語・閉講式								
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 最終目標値			
講座の実施回数		実施回数が多いほど、対象者の 参加機会の増加に繋がる。		回	8 (ー)	7 (ー)	H 年度 ()			
					()	()	H 年度 ()			
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 最終目標値			
参加人数(延べ)		参加人数が多いほど、対象者に 対する学習効果の増が期待 できる。		人	307 (ー)	275 (ー)	H 年度 ()			
					()	()	H 年度 ()			

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☒ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☒ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 高齢者への学習機会の提供は社会教育事業であり、広尾町生涯学習推進計画<第2次計画>にも記載されている推進事業のひとつである。よって今後も行政で主体的に取り組んでいく必要がある。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
	今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
	総合コメント					

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	少年学習講座「おもいっきり楽しみ隊」			事業開始年度		6
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3	豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯を学びゆとりを育む
	施策	③	自己実現をはかる社会教育の充実
	具体的な施策	1	学習参加者の拡大と広報広聴活動の充実
めざす目的成果	小学生を対象とした体験活動の提供などを続けることで、個人の人生が豊かで充実したものになると同時に、その成果が地域づくりへと還元される。		
事業内容	対象 (誰を、何を)	小学生	
	手段・手法	年7～8回程度の講座の実施	
	内容	・ネイチャーゲーム、宿泊研修 ・おもしろ科学実験 ・制作活動 ・産業体験活動 など	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳	
コスト	事業費	報償費	20	25	25	[報償費] 少年学習講座講師謝金 25			
		旅費	30	20	30	[旅費] 引率旅費 30			
		需用費	8	0	39	[需用費] 消耗品費 9 賄材料費 30			
	事業費合計	58	45	94					
	人件費	常勤職員(延)	30 人日	935	30 人日	940	30 人日	1,021	
臨時職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0		
人件費合計			935		940		1,021		
総事業費			993		985		1,115	令和元年度財源内訳の積算	
財源内訳	国庫支出金								
	地方債								
	その他特定財源								
	一般財源		993		985		1,115		
	財源合計		993		985		1,115		
H30年度実施内容		計7回の講座を実施。 第1回:自然とふれあおう!、第2回:わんぱく自然体験塾、第3回:おもしろ科学実験～とばせ! ペットボトルロケット～、 第4回:おもしろ科学実験～今度こそとばせ! ペットボトルロケット～、第5回:「トナ会」のおてつだい、 第6回:わんぱく自然体験塾Part2、第7回:低学年向けおもしろ科学実験～音のふしぎ							
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 最終目標値		
講座の実施回数		実施回数が多いほど、対象者の参加機会の増加に繋がる。		回	8 (ー)	7 (ー)	ー (ー)	H 年度 ()	
					 ()	 ()	ー ()	H 年度 ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 最終目標値		
参加人数(延べ)		参加人数が多いほど、対象者に対する学習効果の増が期待できる。		人	156 (ー)	69 (ー)	ー (ー)	H 年度 ()	
					 ()	 ()	ー ()	H 年度 ()	

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☒ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☒ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地があるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 少年期の学習機会や体験活動機会の提供は社会教育事業であり、広尾町生涯学習推進計画<第2次計画>にも掲載されている推進事業のひとつである。よって今後も行政で主体的に取り組んでいく必要がある。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ(2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小			
	今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小			
	総合コメント					

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	大人の文化講座			事業開始年度	H26	7
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3	豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯を学びゆとりを育む
	施策	②	自己実現をはかる社会教育の充実
	具体的な施策	1	成人教育への多様な学習機会の提供
めざす目的成果	基本、仕事等で文化活動を行うことが制限される町民を中心に、文化活動に慣れ親しむ機会を提供し、全ての町民が充実した余暇を過ごすことができる環境を整える。		
事業内容	対象 (誰を、何を)	全ての町民(主に、仕事等で文化活動を行うことが制限される方)	
	手段・手法	年2～3回の文化講座	
	内容	・茶道 ・陶芸 ・絵画 ・三味線 など	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位: 千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳			
コスト	事業費	報償費		70		35		70		[報償費] 大人の文化講座講師謝金 70 [需用費] 消耗品費 18	
		需用費		0		0		18			
		事業費合計		70		35		88			
人件費	常勤職員(延)		5 人日	156	5 人日	157	5 人日	170			
	臨時職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0			
	人件費合計		156		157		170				
総事業費		226		192		258		令和元年度財源内訳の積算			
財源内訳	国道支出金										
	地方債										
	その他特定財源										
	一般財源		226		192		258				
	財源合計		226		192		258				
H30年度 実施内容		計2講座2回を実施。 第1回: 三味線体験講座×1日 第2回: 和太鼓体験講座×1日									
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H29実績 H29(目標)		H30実績 H30(目標)		目標年度 最終目標値	
講座の実施回数		実施回数が多いほど、対象者の 参加機会の増加に繋がる。		回		5 (—)		2 (—)		— (—)	
						()		()		— ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H29実績 H29(目標)		H30実績 H30(目標)		目標年度 最終目標値	
参加人数(延べ)		参加人数が多いほど、対象者 に対する学習効果の増が期待 できる。		人		26 (—)		19 (—)		— (—)	
						()		()		— ()	

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☒ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☒ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 高齢者学級や少年学習講座と同様に、ターゲット層をある程度分類することで年代に応じた質の高い体験学習の機会を提供できるものとする。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小			
	今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小			
	総合コメント					

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	趣味・教養学習講座「マイブラン」			事業開始年度		8
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3	豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯を学びゆとりを育む
	施策	②	自己実現をはかる社会教育の充実
	具体的な施策	1	成人教育への多様な学習機会の提供
めざす目的成果	5人以上の仲間が集まり、自ら趣味や教養の講座を企画運営することで、幅広く学習機会の提供を図る		
事業内容	対象 (誰を、何を)	全ての町民	
	手段・手法	団体の企画する趣味教養講座の計画を審査し、講師派遣費用の一部補助を行う	
	内容	レクダンス、エアロビダンス、木育体験講座、しめ飾り作成講座など、団体で企画・計画した講座の実施	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳	
コスト	事業費	報償費	180		40		200		[報償費] 講師謝金 200
	事業費合計	180		40		200			
人件費	常勤職員(延)	2人日	62	2人日	63	2人日	68		
	臨時職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0		
	人件費合計	62		63		68			
	総事業費	242		103		268			令和元年度財源内訳の積算
財源内訳	国道支出金								
	地方債								
	その他特定財源								
	一般財源	242		103		268			
	財源合計	242		103		268			
H30年度実施内容		2講座6回開催。参加者述べ49人。 着付けの集い、手作りしめ飾り講座							
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 最終目標値		
					()	()	— H 年度 ()		
					()	()	— H 年度 ()		
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 最終目標値		
講座の開催回数		開催回数が多いほど、自発的に学習に取り組む意欲向上に繋がったと考えられる。		回	16 (—)	6 (—)	— H 年度 ()		
参加人数(延べ)		参加人数が多いほど、学習効果がより多くの人に波及したと考えられる。		人	111 ()	49 ()	— H 年度 ()		

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。		
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()		
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☒ 見直す余地があるが時間が必要 ☐ 見直す余地がない	
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☒ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()		
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 年々事業費を縮小しながら継続をしている。各講座とも参加者が多く、事業を廃止すれば自発的に活動しようとする意欲ある団体育成に弊害が生じる恐れがあるため、予算規模を検討しながら制度維持していくべきと考える。			

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
	今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
	総合コメント					

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	秋の芸術祭(展示発表部門・芸能発表部門)			事業開始年度		9
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☒ 事業協力 ☒ 他					その他(広尾町文化協会主

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3	豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯を学びゆとりを育む
	施策	⑥	すそ野を広げる芸術文化の振興
	具体的な施策	2	地域文化協会や各サークルの活性化と組織強化
めざす目的成果	町内における文化団体相互の親睦を図り、文化活動の振興助長に努め、広尾町の芸術文化に寄与する。		
事業内容	対象 (誰を、何を)	全ての町民	
	手段・手法	各文化サークルによる展示発表会及び芸能発表会	
	内容	展示発表会・・・書道・絵画・習字・写真・生け花・ヨーロッパ刺繍・俳句等 芸能発表会・・・よさこい・ジャズ・大正琴・バントワリング・和太鼓・フラダンス等	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳
コスト	需用費		28		15		100	[需用費] 消耗品費等 100
	事業費合計		28		15		100	
人件費	常勤職員(延)	9 人日	281	9 人日	282	9 人日	306	[その他特定財源] 広尾町文化協会 100
	臨時職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0	
	人件費合計		281		282		306	
総事業費			309		297		406	
財源内訳	国道支出金							
	地方債							
	その他特定財源		39		15		100	
	一般財源		270		282		306	
財源合計			309		297		406	
H30年度実施内容		展示発表(11/2～/4開催)・・・19団体433作品。来場者数257人。 芸能発表(11/18開催)・・・10団体35演目。来場者数165人。						
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	R1(目標)		目標年度 最終目標値
展示作品数		作品数が多いほど、来場者満足度が期待でき、文化活動の振興に繋がると考えられる。	点	389 (—)	433 (—)	— (—)		H 年度 ()
芸能発表演目数		演目数が多いほど、来場者満足度が期待でき、文化活動の振興に繋がると考えられる。	演目	31 (—)	35 (—)	— (—)		H 年度 ()
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	R1(目標)		目標年度 最終目標値
来場者数(展示発表)		来場者数が多いほど、町の文化活動の振興に繋がることが期待できる。	人	270 (—)	257 (—)	— (—)		H 年度 ()
来場者数(芸能発表)		来場者数が多いほど、町の文化活動の振興に繋がることが期待できる。	人	146 (—)	165 (—)	— (—)		H 年度 ()

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地があるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 広尾町文化協会の主催事業で、日頃の活動の成果を発表できるイベントは他に無い。毎年多数の来場者があり、その目的からも行政が継続して支援すべき事業である。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
	今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
	総合コメント					

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	豊似文化・音楽祭			事業開始年度		10
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☒ 事業協力 ☒ その他(豊似文化協会主催)					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3	豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯を学びゆとりを育む
	施策	⑥	すそ野を広げる芸術文化の振興
	具体的な施策	2	地域文化協会や各サークルの活性化と組織強化
めざす目的成果	町内における文化団体相互の親睦を図り、文化活動の振興助長に努め、広尾町の芸術文化に寄与する。		
事業内容	対象 (誰を、何を)	全ての町民	
	手段・手法	豊似地区住民による文化・音楽祭の開催	
	内容	絵画・書道などの作品展示、バンド演奏、アームレスリング大会など	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳		
コスト	事業費	報償費		10		26		20		[報償費] 出演者謝金 20 [需用費] 消耗品費等 130
		需用費		140		124		130		
		事業費合計		150		150		150		
	人件費	常勤職員(延)		1人日	31	1人日	31	1人日	34	
		臨時職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0	
		人件費合計		31		31		34		
		総事業費		181		181		184		令和元年度財源内訳の積算
	財源内訳	国道支出金								[その他特定財源] 豊似文化協会 150
地方債										
その他特定財源		150		150		150				
一般財源		31		31		34				
財源合計		181		181		184				
H30年度実施内容		豊似文化・音楽祭(11/10開催)・・・作品展示者83人251作品。音楽祭出演者9団体74演目。来場者数207人。								
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	R1(目標)		目標年度 最終目標値	
展示作品数		作品数が多いほど、来場者満足度が期待でき、文化活動の振興に繋がると考えられる。		点	308 (ー)	251 (ー)	ー ()		H 年度 ()	
芸能発表演目数		演目数が多いほど、来場者満足度が期待でき、文化活動の振興に繋がると考えられる。		演目	13 (ー)	74 (ー)	ー ()		H 年度 ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	R1(目標)		目標年度 最終目標値	
来場者数		来場者数が多いほど、町の文化活動の振興につながることが期待できる。		人	166 (ー)	207 (ー)	ー ()		H 年度 ()	
							ー ()		H 年度 ()	

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 豊似文化協会の主催事業で、日頃の活動の成果を発表できるイベントは他に無い。音調津文化協会、野塚文化協会が活動を休止している中にあって、地域で主体的に運営している希少なイベントであり、行政が継続して支援すべき事業である。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小			
	今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小			
	総合コメント					

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	広尾町芸術鑑賞町民劇場			事業開始年度	S58	11
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☒ 事業協力 ☒ その他(実行委員会主催)					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3	豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯を学びゆとりを育む
	施策	⑥	すそ野を広げる芸術文化の振興
	具体的な施策	1	芸術鑑賞機会の充実
めざす目的成果		町の芸術文化の向上を図るため、優れた芸術文化鑑賞の機会を町民に供し、その鑑賞を通して町民の大きな交流の場とし、町内の芸術文化団体の育成や発展を目指す。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	全ての町民	
	手段・手法	年1回の芸術鑑賞イベントの開催	
	内容	音楽鑑賞、演劇鑑賞、落語、マジック、人形劇など	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳	
コスト	事業費	報償費	874	0	1,650	[報償費] 公演料 1,650			
		需用費	55	79	135	[需用費] 印刷製本費等 135			
		役務費	9	0	15	[役務費] 各種手数料 15			
	事業費合計		938	79	1,800				
	人件費	常勤職員(延)	15 人日	468	15 人日	470	15 人日	510	
		臨時職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0	
		人件費合計		468		470		510	
		総事業費		1,406		549		2,310	令和元年度財源内訳の積算
財源内訳	国道支出金					[その他特定財源] 広尾町芸術鑑賞町民劇場実行委員会 1,500 入場料収入等 300			
	地方債								
	その他特定財源		1,102		12		1,800		
	一般財源		304		537		510		
	財源合計		1,406		549		2,310		
H30年度 実施内容		「札幌交響楽団記念公演」(7/29開催)・・・来場者数373人							
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 R1(目標) 最終目標値			
						— H 年度 () () () ()			
						— H 年度 () () () ()			
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 R1(目標) 最終目標値			
来場者数		来場者数が多いほど、町の文化活動の発展につながることが期待できる。	人	245 (—)	373 (—)	— (—) H 年度 ()			
						— H 年度 () () () ()			

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 普段は鑑賞機会の少ない質の高い芸術鑑賞を楽しむことができるイベントで、町民のニーズも高い。その目的からも、行政が継続して支援すべき事業である。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断
	投入資源の方向性	事業費	☒ 増額 ☐ 現状のまま ☐ 減額
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
	今後の取組方針(改善点・変更点)		隔年開催とすることで予算を確保し、集客力のある出演者の招へいを検討してはどうか。
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
	総合コメント		これまでの経過を踏まえ、担当課と実行委員会で方向性を協議すること。

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	少年将棋教室			事業開始年度		12
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☒ 事業協力 ☒ その他(青少年健全育成推進協議会主催)					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3	豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯を学びゆとりを育む
	施策	③	青少年健全育成の充実
	具体的な施策	1	学習参加者の拡大と広報広聴活動の充実
めざす目的成果	親子で同じ趣味を通じ、親子の絆を深めあうほか、他校の児童生徒との交流を図る機会とする。		
事業内容	対象 (誰を、何を)	町内の小中学生及びその保護者	
	手段・手法	将棋同好会会員を講師とした将棋教室	
	内容	将棋の対局による児童間、親子間の交流	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳
コスト	事業費	5		5		5		[報償費] 講師謝金 5 [需用費] 参加記念品 20
	需用費	15		21		20		
	事業費合計	20		26		25		
	人件費	2人日 62		2人日 63		2人日 68		
	臨時職員(延)	時間 0		時間 0		時間 0		
	人件費合計	62		63		68		
総事業費		82		89		93		令和元年度財源内訳の積算
財源内訳	国道支出金							[その他特定財源] 広尾町青少年健全育成推進協議会 25
	地方債							
	その他特定財源	19		20		20		
	一般財源	63		69		73		
財源合計		82		89		93		
H30年度実施内容		少年将棋教室(3/16開催)・・・小学生14人、保護者2人参加。						
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	R1(目標)		目標年度 最終目標値	
			()	()	()		H 年度 ()	
			()	()	()		H 年度 ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	R1(目標)		目標年度 最終目標値	
参加人数	参加人数が多いほど、児童間・親子間の交流の促進が期待できる。	人	16 (-)	16 (-)	(-)		H 年度 ()	
			()	()	()		H 年度 ()	

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☒ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 広尾町青少年健全育成推進協議会の事業として開催しており、毎年一定以上の親子参加がある。社会教育的な視点からも、現状のまま支援を継続すべき事業と考える。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ(2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
	今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
	総合コメント					

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	はたちのつどい			事業開始年度		13
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ		基本目標	3	豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
		政策	2	生涯を学びゆとりを育む
		施策	②	自己実現をはかる社会教育の充実
		具体的な施策		
めざす目的成果		式典の場を設けることで、新成人として社会人となった自覚と責任を認識する機会とする		
事業内容	対象 (誰を、何を)	20歳を迎える町民		
	手段・手法	対象者に案内を行い、記念式典を開催する		
	内容	記念式典及び記念品の贈呈、記念撮影の実施など		

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳			
コスト	事業費	報償費		177		83		112		[報償費] 記念品費 120 [需用費] 消耗品費等 126 [役務費] 通信運搬費 14	
		需用費		149		105		126			
		役務費		14		14		14			
	事業費合計		340		202		252				
	人件費	常勤職員(延)		4人日	125	4人日	125	4人日	136		
臨時職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0				
人件費合計		125		125		136					
総事業費		465		327		388		令和元年度財源内訳の積算			
財源内訳	国道支出金										
	地方債										
	その他特定財源										
	一般財源		465		327		388				
	財源合計		465		327		388				
H30年度 実施内容		はたちのつどい(H31.1.3開催)・・・参加者数:新成人59人、来賓23人									
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H29実績 H29(目標)		H30実績 H30(目標)		目標年度 最終目標値	
						()		()		H 年度	
						()		()		H 年度	
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H29実績 H29(目標)		H30実績 H30(目標)		目標年度 最終目標値	
参加人数(新成人)		参加人数が多いほど、より多くの 新成人に効果が波及すると 考えられる。		人		64 (-)		59 (-)		H 年度	
						()		()		H 年度	

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☒ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☒ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 成人式に相当するイベントであり、行政が主体となって行うイベントである。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
	今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
	総合コメント					

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	スポーツ教室			事業開始年度		14
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3	豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯を学びゆとりを育む
	施策	⑤	町民皆スポーツの振興
	具体的な施策	1	健康を意識したスポーツの振興
めざす目的成果		スポーツ教室の開催により、運動に親しむ機会を提供し、体力向上や健康増進を促す	
事業内容	対象 (誰を、何を)	全ての町民	
	手段・手法	教室への参加者を募り、外部講師による指導を行う	
	内容	アクアエクササイズ教室、親子スケート教室、インストラクター配置・派遣事業	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳
コスト	事業費	報償費	100		1,396		496	[報償費] インストラクター謝金 496
	事業費合計	100		1,396		496		
人件費	常勤職員(延)	7人日	218	7人日	219	7人日	238	
	臨時職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0	
	人件費合計	218		219		238		
	総事業費	318		1,615		734		
財源内訳	国道支出金			1,000				[国庫補助金] 公共スポーツ施設等活性化助成事業補助金 1,000
	地方債							
	その他特定財源							
	一般財源	318		615		734		
	財源合計	318		1,615		734		
H30年度実施内容		アクアエクササイズ教室・・・4日間、延べ23人参加 親子スケート教室・・・実績なし インストラクター配置・派遣事業・・・インストラクターによる指導を受けた人数 延べ185人、 トレーニングルーム利用者 延べ1,412人(前年度365人)						
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	 R1(目標)	目標年度 最終目標値
					 ()	 ()	— ()	H 年度 ()
					 ()	 ()	— ()	H 年度 ()
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	 R1(目標)	目標年度 最終目標値
参加人数		参加人数が多いほど、町内のスポーツ振興に対する効果が期待できる。		人	46 (—)	208 (—)	— (—)	H 年度 ()
					 ()	 ()	— ()	H 年度 ()

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 各種スポーツ教室の開催は、広尾町生涯学習推進計画＜第2次計画＞の登載事業であり、今後も行政として継続的に運動に親しむ機会を提供すべきである。またH30年度より新規事業として実施したインストラクター配置・派遣事業に伴いトレーニングルームの利用者が急増しており、町民の健康増進に大きく寄与している。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小			
	今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小			
	総合コメント					

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	クリスマスおたのしみ会			事業開始年度	H4	15
担当課	社会教育課	担当係	図書館係	担当者	三崎 奈美子	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3	豊かな心をはぐくみ文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯を学びゆとりを育む
	施策	②	自己実現をはかる社会教育の充実
	具体的な施策	5	図書館の整備
めざす目的成果		・サークル会員と参加者、サークル会員同士に交流が生まれる。 ・図書館サークルの活発な活動、研鑽の場。 ・おはなしへの興味を育み、絵本の貸出につなげる。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	・町民	
	手段・手法	・図書館サークル「らっこ座」による人形劇等の公演	
	内容	・子どもを対象した文化面の催し物が本町では少ないため、人形劇等を生で観る機会を与えることを目的として会員たちが制作、公演を実施。また、会員相互の親睦と交流を図る。	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳			
コスト	事業費	報償費		20		20		20		[報償費] 図書館講座謝金:20	
	事業費合計		20		20		20				
人件費	常勤職員(延)		3人日	94	4人日	126	3人日	103			
	臨時職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0			
	人件費合計		94		126		103				
	総事業費		114		146		123			令和元年度財源内訳の積算	
財源内訳	国道支出金										
	地方債										
	その他特定財源										
	一般財源		114		146		123				
財源合計		114		146		123					
H30年度実施内容		・人形劇、大型紙芝居、ボードビルなど実施。来場者98名。子どもたちが人形劇を生で見る機会ができた。 ・H30年度は開町150年記念事業としてさーたちゃん、ツリーくんが登場。 ・おはなしを楽しむことで物語への興味が触発され、参加者親子が会場から児童書コーナーへ移動し、絵本の貸出に繋がった。									
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H29実績 H29(目標)		H30実績 H30(目標)		目標年度 最終目標値	
参加者数		参加者が多いほど図書の貸出の増加が期待できる。		人		78 ()		98 (80)		— (80) (80)	
						() ()		() ()		R 2 年度 () ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H29実績 H29(目標)		H30実績 H30(目標)		目標年度 最終目標値	
読書の芽を育てる。		子どもたちの読書の芽を育てる。				() ()		() ()		— () ()	
						() ()		() ()		R 2 年度 () ()	

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☒ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 人形劇を生で見ることができる機会はそうなく、また、道内の他の人形劇サークルに依頼する場合と比べても謝金の金額を抑えることができています。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ(2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止			
			時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
今後の取組方針(改善点・変更点)						
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止			
			時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
総合コメント						

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	にんぎょうげきのつどい			事業開始年度	H4	16
担当課	社会教育課	担当係	図書館係	担当者	三崎 奈美子	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3	豊かな心をはぐくみ文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯を学びゆとりを育む
	施策	②	自己実現をはかる社会教育の充実
	具体的な施策	5	図書館の整備
めざす目的成果		・サークル会員と参加者、サークル会員同士に交流が生まれる。 ・図書館サークルの活発な活動、研鑽の場。 ・おはなしへの興味を育み、絵本の貸出につなげる。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	・町民	
	手段・手法	・図書館サークル「らっこ座」による人形劇等の公演	
	内容	・子どもを対象した文化面の催し物が本町では少ないため、人形劇等を生で観る機会を与えることを目的として会員たちが制作、公演を実施。また、会員相互の親睦と交流を図る。	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳	
コスト	事業費	報償費	10		10		10		[報償費] 図書館講座謝金:10
	事業費合計	10		10		10			
人件費	常勤職員(延)	3人日	94	3人日	95	3人日	103	令和元年度財源内訳の積算	
	臨時職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0		
	人件費合計	94		95		103			
	総事業費	104		105		113			
財源内訳	国道支出金								
	地方債								
	その他特定財源								
	一般財源	104		105		113			
	財源合計	104		105		113			
H30年度 実施内容		・大型絵本、人形劇、ボードビルなど実施。来場者48名。子どもたちが人形劇を生で見る機会ができた。							
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 最終目標値		
参加者数		参加者が多いほど図書の貸出 の増加が期待できる。		人	38 ()	48 (48)	— (40)	R 2 年度 (40)	
					 ()	 ()	— ()	R 2 年度 ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 最終目標値		
読書の芽を育てる。		子どもたちの読書の芽を育て る。			 ()	 ()	— ()	R 2 年度 ()	
					 ()	 ()	— ()	R 2 年度 ()	

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。		
	☒ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()		
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地があるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない	
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()		
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 人形劇を生で見ることができる機会はそうなく、また、道内の他の人形劇サークルに依頼する場合と比べても謝金の金額を抑えることができている。			

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
	今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額	
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小	
	総合コメント					

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	絵本作家講演会			事業開始年度	H20	17
担当課	社会教育課	担当係	図書館係	担当者	三崎 奈美子	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3	豊かな心をはぐくみ文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯を学びゆとりを育む
	施策	②	自己実現をはかる社会教育の充実
	具体的な施策	5	図書館の整備
めざす目的成果	絵本や絵本作家という職業、絵本を通じた親子の関わりなどに対する興味を深め、知的好奇心を育む場を提供する。		
事業内容	対象 (誰を、何を)	・町民	
	手段・手法	・平成20年度より、絵本作家講演会を実施。平成30年度は、名寄大学社会保育学科准教授で絵本作家としての制作活動の他、子どもたちとの工作ワークショップや施設での療育活動にも携わる堀川真氏による講演。	
	内容	・幼児～一般及び幼稚園・保育園児を対象とした講演会を実施。 ・創作活動や絵本の読み聞かせ、保育者に参考となる簡単工作についても紹介。	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位: 千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳		
コスト	事業費	報償費		170		130		250		[報償費] 図書館講座謝金: 200
		事業費合計		170		130		250		
	人件費	常勤職員(延)		8 人日	250	8 人日	251	10 人日	342	
		臨時職員(延)		16 時間	13	3 時間	3	6 時間	5	
		人件費合計		263		254		347		
		総事業費		433		384		597		
	財源内訳	国道支出金								
地方債										
その他特定財源										
一般財源		433		384		597				
財源合計		433		384		597				
H30年度実施内容		・絵本作家堀川真氏による講演会を実施し、143名が来場した。 ・H30年度は開町150年及びファイターズ応援大使の年であり、北海道日本ハムファイターズと協力して絵本を作成している堀川氏からファイターズ絵本の創作の話などもあった。 ・創作活動や簡単工作を知ること、絵本作家という職業や幼児と関わる方法、絵本への興味が深まった。								
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 最終目標値			
参加者数		参加者が多いほど図書の貸出の増加が期待できる。		人	262 ()	143 (180)	— (180) (180)			
					()	()	— () ()			
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	目標年度 最終目標値			
読書の芽を育てる。		子どもたちの読書の芽を育てる。			()	()	— () ()			
					()	()	— () ()			

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☒ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☒ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
	【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 H30年度は準備や職員体制などを鑑みて講演を1回としたため、人数だけを見ると3回の講演を行ったH29年度に比べて減少しているように見えるが、絵本作家から直接話を聞くことによって親子や保育園児に与えられる影響は大きい。	

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ(2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小			
	今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小			
	総合コメント					

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	図書館まつり(150年記念事業)			事業開始年度	H30	18
担当課	社会教育課	担当係	図書館係	担当者	三崎 奈美子	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3 豊かな心をはぐくみ文化を高めるまちづくり
	政策	2 生涯を学びゆとりを育む
	施策	② 自己実現をはかる社会教育の充実
	具体的な施策	5 図書館の整備
めざす目的成果		・サークル間の交流、サークル会員と参加者の交流を促し、それぞれの団体への興味を深める。 ・おはなし会等のイベントを通じて読書の芽を育む。
事業内容	対象 (誰を、何を)	・町民
	手段・手法	・広尾町開町150年に伴い、町内の読書等に関わるサークル8団体の協力を得て展示やおはなし会を実施。
	内容	・読書に関わるサークル8団体による展示やおはなし会を2日間にわたって実施。

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(予算)		令和元年度事業費の内訳	
コスト	事業費	報償費			80			[報償費] 図書館まつり謝金: 80	
		事業費合計	0	80	0				
人件費	常勤職員(延)	人日	0	10 人日	314	人日	0		
	臨時職員(延)	時間	0	40 時間	32	時間	0		
	人件費合計	0	346	0					
総事業費		0	426	0		令和元年度財源内訳の積算			
財源内訳	国道支出金								
	地方債								
	その他特定財源								
	一般財源	0	426	0					
財源合計		0	426	0					
H30年度実施内容		・開町150年を記念して、図書館サークル5団体に加えて、広尾小・豊似小学校の学校図書室支援ボランティア、酪農家のお母さんたちによる豊栄会の計8団体が行う展示やおはなし会の2日間のイベントを実施した。 ・展示やおはなし会を通じて、読書への興味関心を持たせることができた。							
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	R1(目標)		目標年度 最終目標値		
参加者数	参加者が多いほど図書の貸出の増加が期待できる。	人	()	298 ()	— ()		H 年度 ()		
			()	()	— ()		H 年度 ()		
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H29実績 H29(目標)	H30実績 H30(目標)	R1(目標)		目標年度 最終目標値		
読書の芽を育てる。	子どもたちの読書の芽を育てる。		()	()	— ()		H 年度 ()		
			()	()	— ()		H 年度 ()		

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☒ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 開町150年記念に合わせて行った事業であり、8団体揃っての実施はH30年度限りとなる。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☐ 現状のまま ☒ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小			
	今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断			
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☐ 現状のまま ☒ 減額			
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小			
	総合コメント					